

3つの癌がほぼ同時に告知されたのは、2年7カ月前のこと。乳癌(ステージ4)、子宮頸癌(ステージⅡa)、子宮体癌(ステージⅠ)。子宮と卵巣は全摘出手術しましたが、乳癌は、遠隔転移(リンパ節、骨、脳膜他いろいろ)で乳癌は切除できませんでした。左胸はカリフラワーのような状態、一部癌細胞は皮膚を突き破って表面にでている状態でした。

「あれ?もしかしたら乳癌?」と最初に感じたのは15年も前のこと。子育て真っ只中だったこと、痛みもなかったことでそのまま放置していた。その後も、左胸の変化にどんどん怖くなって病院にいけずにいた、不安で不安でたまらなかった。そして、2年余り前、瀕死の状態に娘たちに抱えられ病院の救急に運ばれた。医師からきつと「なぜ、こんなになるまで放っておいたのか」と叱られるのではと思っていましたが、そのときの担当の医師の言葉は予想とは違い「良く覚悟して来はったね。もう大丈夫ですから」でした。その言葉を聞いたとたん、表現できない安心感と脱力感とともにベッドで涙が溢れました。それから半年の入院生活のなかで医療従事者の方からの手厚い治療、看護とともに、「ことば」でも治療していただきました。

退院後も「がん友さん」「命友」という同病の方との関わりをたぐさん持つことができました。もちろん悲しいお別れもたぐさんありましたが、闘う仲間としていろいろなことを教えていただきました。家族にしか言えないこと、医療従事者にしか相談できないこと、患者同士だからこそ話せること。その全てが私にとって必要不可欠なものでした。癌告知と同時に始めたブログに訪れて下さる方々からもたぐさん勇気づけていただいています。ひとりでは闘えませんでした。

癌というものを知ること、そして自分の現実、症状、治療を知ること大切です。しかし病気のことで頭の中をいっぱいにしてしまっただけでは心まで病気になってしまいます。一日の中で少しでもいいから、癌のことを忘れる時間が必要だと思います。それぞれ自分の好きなことに費やす時間が必要。私の場合は、今大人気の「嵐」ちゃんの歌やDVDを観賞している時は癌であることを忘れていきます。毎週の抗がん剤投与も、嵐ちゃんのDVDを観ながら2年以上ずっと続けています。一生続く抗がん剤投与ですから治療もできるだけ楽しむように心がけています。

癌になったことは不運だったかもしれませんが、不幸ではありません。癌になったけれど心は健康でありたいです。そして今、強がりではなく「癌になってよかった」と思えます。本当に大切なものがたぐさん見えてきましたから。